第Ⅱ部
教科領域別研究







国語科

教科領域研究テーマ
【文学作品における読みの課題を
協同的に読み深める学習活動の展開】



国語科

文学作品における読みの課題を協同的に読み深める学習活動の展開

実　践　者　細川　美保，大上　航太，丸山　佑樹
愛媛大学研究パートナー　三浦　和尚

第１章　はじめに

生徒に持続可能な社会を支える資質・能力を育成するためには，自分の経験・価値観・感性などを基に言葉を用いて課題を解決する力（自立の力）と，多様な価値観を認め，お互いの個性を尊重したり他者と協調しながら進んで行動したりする力（共生の力）を育てる必要がある。

文学作品を読むことは，自分，それを取り巻く人，ものとのよりよい関係を築くための基盤になるとともに，読みを深める中で言葉を吟味し，読み手自身の経験や価値観と比べ，読み手それぞれの多様な考えを表出していくことにつながる。さらに，ものごとを批判的に考えたり多面的に捉えたりする力を育てるためにも必要不可欠なものである。

そこで，主張・事実・理由づけについて筋道を立てて考え表現する力を育て発揮させながら，文学作品における読みの課題を協同的に追究し読み深める学習活動を展開することにより，上に挙げた自立と共生の力を育てることにつながると考え，本研究主題を設定した。

第２章　研究の実際

研究（その１）

対話的な学びを通して文章に表れたものの見方や考え方について読み深める学習指導の工夫

（実践者）細川　美保

１　研究テーマ設定の理由

現在，様々な場でコミュニケーション能力の育成が求められている。国語科では「伝えたいことをうまく伝えること」「伝えたい事柄，自分の考えについて，根拠を明確にして具体的に書いたり，話したりすること」「課題解決のために必要な情報を集めたり，読むべき箇所を自ら判断したりすること」に課題があると言われている。持続可能な社会を支える資質・能力として，他者に自分の考えを伝える力，多くの情報から必要な情報を取り出し，筋道を立てて考え，表現する力は必須である。

昨年度は，言葉そのものを理解すること，言葉のつながりから文章全体の内容を的確に理解すること，それについて，自らがどのような考えを持っているかを筋道を立てて表現することに取り組んできた。同じ文章を基にしていても，その人の考えや体験，価値観によって，理由づけの内容に違いが表れる。その違いを知ることが，人を知ることにもつながるということを学んだ。

昨年度の取組を踏まえ，今年度は文章の中の多くの言葉の中から，視写や音読を通して「読み深めるポイントとなる言葉」を生徒自身が考え，そこから学習課題を設定することから学習をスタートする。さらに，課題解決に向けて話し合い，聴き合い，共有し合いながら自己内対話の時間を設け，読み深めることを目指していきたい。登場人物の心情や，他者の発言の意図を読み取り，その意図を踏まえた上で自分の意見を述べることで読みを深め，読み味わうところにまでつなげていきたい。言葉をよりどころにして考えを深め，仲間とつながったり課題を解決したりすることが持続可能な社会を支える資質・能力につながるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

(1)　生徒の実態把握

(2)　協同の学び合いの場の充実

ホワイトボード等を活用して様々な意見を目に見える形に表し，自分の考えが広がったり，同じ考えを聞いて自分の根拠が一層明確になり自信が持てるようになったりするなど，生徒の考えの変化が期待できるような授業展開とする。また，うまく言葉にならない生徒に対しては，グループや学級全体でその生徒の思いを受け止めながら一緒に言葉を創っていくことを大事にする。さらに，自分や他者の思考を後で振り返ることができるように，ワークシートを工夫する。

(3)　音読と視写を取り入れた授業の工夫

短歌や古典の授業において繰り返して音読することは，文章や定型詩のリズムを体感し特徴を理解すると共に，日本の言葉そのものの響きの美しさを感じ取る時間となる。また視写をすることは，落ち着いた時間の中で，個人で言葉や文章，作品に込められた思いなどと向き合う時間となる。音読や視写は，音と文字によって日本語に触れ，見過ごしていた言葉を改めて見つめたり，その言葉の意味を考えたりするきっかけとなり，文章を理解する手立ての一つとなるのではないかと考える。その中で，生徒に主体的に課題を発見させたいと考えている。

3　研究の実際

(1)　生徒の実態

本実践対象学級の生徒（80名）は，意見を出し合い，学級全体で話し合う中で，共感したり反論したりしながら力を合わせて読みを深め合うことができる。昨年度は詩や物語において，生徒の疑問を踏まえて教員が設定した課題について話し合う中で読みを深めた。一つの課題について話合いは数時間に及ぶこともあったが，その時間を楽しみながら主体的に学習を進めることができた。それを踏まえ今年度は「生徒自らが課題を設定する」ことに取り組んできた。短歌の学習では三十一音の中で作者の思いが詰まっている言葉を自分たちが話し合い，そこから読みを深めていった。また『枕草子』の学習では，随筆であることから，作品には作者の人間性が出るのではないか，ということを考え，「清少納言はどのような人物なのだろうか」という課題のもと「第一段」の現代語訳を丁寧に読み，言葉そのものや言葉のつながりから考えたことについて，仲間と協力しながら読み深め，清少納言の人物像について自分の考えを持つことができた。話合いの様子を見ると，昨年度は仲間の意見に流されたり，自分の意見を他に伝えられなかったりしていた生徒も，少しずつ自分の意見が授業内容や仲間の考えに反映していくことを楽しめるようになってきた。しかし，数名ではあるが根拠がしっかりと言えないまま意見を述べる生徒もいるため，うまく言葉にならない生徒に対しては，グループや学級全体でその生徒の思いを受け止めながら一緒に言葉を創っていくことを大事にしていく必要があると分かった。

(2)　論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

論理的に思考し表現する力を高めるための工夫として，次の三つのことに留意して指導していきたい。

一つ目は，言葉を大切にするということである。学習者の思考の基本は言葉である。それをどう理由づけするかによって読みは違ってくる。言葉の一つ一つを大切にしていくことを基本において学習を進めたい。そのために，音読や視写を授業に取り入れ，言葉そのものと向き合う時間を設けた。

二つ目は，協同の学びを発揮する場を設定することである。文学作品を読み深める際に，問答ゲームの形式を用い，自分自身の考えを明確にしたり深めたりしていく場を設けた。さらに全体の学習の中でも，仲間の発言に対し疑問に思ったり自分の意見とは異なっていると思ったりした場合に積極的に自分の考えを伝えたり，仲間の意見に補足して賛同したりするなど，互いの立場や考えを尊重しながら全体で論理的に読み深めていく場を設定した。

三つ目は，相互評価を行う場を設定することである。自分の考えが深まるきっかけとなった発言をした仲間を授業の最後に発表し，賞賛する場を設けた。自分のものの見方や考え方を広げさ

せるために，仲間の発言から，文学作品に表れているものの見方や考え方を捉え，自分の見方や考え方と比較したり検討したりする活動を行った。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ア) 単 元 名

戦乱の中での人間の生き方を考えよう

(イ) 単元目標

場面の状況や登場人物の行動に着目し，話し合い，考えを共有し合いながら登場人物や作者の思いなどを想像することで，古典に表れたものの見方や考え方に触れたり，視野を広げたりしながら，読み深めることができる。

〔本質的な問い〕

古典作品（物語）を読み深めるにはどのようにすればよいのか。

〔永続的な理解〕

歴史的な背景や生活状況，自分の経験を踏まえながら表現に基づいて登場人物の言動について考えることが，先人の思いや，物語の根底に流れる古典作品のテーマに迫ることにつながり，古典を主体的に読み深めることになる。

(ウ) 評価目標と評価方法

評 価 目 標	評 価 方 法
①『平家物語』において主体的に登場人物の思いを理解しようとしたり，登場人物の魅力を表現しようとしたりする。（関心・意欲・態度） ②古典に表れているものの見方や考え方を歴史的知識や自分の経験に基づいて捉え，自分のものの見方や考え方を広げている。（読むこと） ③古典に表れたものの見方や考え方に触れ，登場人物や作者の思いなどを想像している。 （伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）	◎パフォーマンス課題 昨年『平家物語』の「扇の的」を学習した３年生ですが，那須与一以外の武士の生き方についても伝えたいと大上先生から相談がありました。そこで，２年生が「敦盛の最期」の場面における「敦盛と直実の生き方」について解説書を書き，３年生に読んでもらおうと思います。「敦盛の最期」の場面を読んでいない３年生が，敦盛と直実の生き方について理解できるように解説書を書いてください。（①②③） ○観察（①） ○ワークシートやアドバイスの記述分析（①②③）

(エ) ルーブリック

①敦盛と直実の生き方について，それぞれ２つ以上の本文の根拠を基に解説できており，それぞれの生き方の解説が納得できるものである。 ②「敦盛の最期」を読んでいない３年生にも内容が分かるように書いている。	
A	①と②が踏まえられており，読者は武士としての生き方について考えることができる。
B	①と②が踏まえられている。（一部納得できない部分があるのは可。）
C	①もしくは②，または①②共に，適切に書かれていない。

(オ) 指導計画（全７時間）

次	学 習 内 容	◇ 評 価 規 準（観点）	時間
1	学習の見通しを持とう。 ○学習内容と単元を通してどのような学習をするか確認する。	◇古典に表れているものの見方や考え方を歴史的知識や自分の経験に基づいて捉え，自分のものの見方や考え方を広げている。（関心・意欲・態度）（読むこと）	1

	○『平家物語』の冒頭部分を読み，意味の切れ目に注意して繰り返し音読する。 ○文体の特徴を理解する。	◇作品の特徴を生かして朗読するなどして，古典の世界を楽しんでいる。 （伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）	
2	『平家物語』を読み深めよう。 ○冒頭部分に表れているものの考え方について読み深める。 ○「敦盛の最期」の場面を視写，音読しながら，内容を理解し，疑問を出し合う。 ○自分なら敦盛の首を取るかどうかを話し合う。	◇「冒頭部分に表れている，平家物語のテーマとは何か」について，古文の言葉を大切にして読んでいる。（読むこと） ◇敦盛や直実の生き方を通して，武士としての生き方や歴史的状況について考えている。（読むこと） ◇話合いを通して自分の考えをまとめている。（読むこと）	3 本時 その3
3	解説文を書こう。 ○解説文の下書きを書く。 ○仲間の解説文についてアドバイスをする。 ○仲間のアドバイスを参考にして解説文を清書する。	◇２次までの学習を基に解説文を書いている。（読むこと） ◇「敦盛の最期」の内容と主張が論理的に表現されているかどうか，仲間とアドバイスをし合っている。（読むこと）	2
4	仲間の解説文を読み，批評し合おう。 ○お互いが書いた解説文を相互評価する。	◇仲間が書いた解説文を読み，古典に表れているものの見方や考え方を捉え，自分のものの見方や考え方を広げている。（読むこと）	1

(カ) 第４時の指導（４／７時間）

○主　題　　敦盛と直実の生き方について考えよう

○ねらい

- 文章の言葉を手がかりにしながら敦盛と直実の生き方について読み深めることができる。
- 話合いを通して自分の考えをまとめることができる。

○展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　本時の学習課題を確認する。（一斉）	2	○敦盛と直実の生き方について考えよう。	○課題を解決するために古典の内容を丁寧に捉えることを生徒に伝えた。
2　学習課題を提示する。	3	直実は敦盛の首を取ったが，自分が直実なら敦盛の首を取るか。	○視写と音読を通して前時で考えた「読み深めるポイントとなる言葉」を発表させ，それを基に教師から課題を提示した。
3　本文を音読する。	5	○本文を音読しよう。	○課題について考えさせるため，言葉の意味を考えながら各自で音読させた。
4　学習課題の解決に取り組む。 （個人）	35 (6)	○自分の考えを書こう。	**○思考の整理をさせるために，自分の考えと根拠をワークシートに書かせた。また，多様な側面から考えられるように，敦盛と直実の欄を別にした。**

（ペア） （個人）	(5) (4)	○問答ゲームを行おう。 ○自分の考えを見直そう。 	**○考えとその根拠を確かなものにさせるために，問答ゲームで仲間の質問に答えさせた。** **○問答ゲームを通して，自分の考えを支える根拠が不足していたり，新たな発見があったりする生徒にはワークシートに加筆させた。**
（全体） 	(20)	○自分の考えを，本文の言葉を根拠に発表しよう。 ・敦盛の武士としてのプライドをもった生き方を理解していない他の源氏方に首を取られるくらいなら敦盛の生き方を尊重して自分が首をとる。 ・いくら敵で，「自ら早く首を取れ」と言われても，我が子と同年代の敦盛の首を取ることはできない。	**○学級全体で仲間の意見を補足したり発展させたりする話合いにするために，根拠が不明確な生徒にも積極的に発言を促した。** ◇言葉を手がかりにしながら「敦盛と直実の生き方」について読み深めている。 （発表・ワークシート） ◇話合いを通して自分の考えをまとめている。 （発表・ワークシート）
5　本時の学びを振り返る。　（一斉）	5	○意外な発言，納得した発言，自分の読みを変えた発言，発見があった発言等について発表しよう。 ・○○君の△△という発言は，自分とは視点が違っていて，新たな発見がありました。	○話合いが，読みを深めることにつながることに気付かせた。 ○次の話合いへの意欲付けと学びの確認のために，お互いの発言について評価させた。

イ　生徒の学びの実際

生徒75名が「読み深めるポイントなる言葉」として挙げた言葉（上位３つ）

- 「とくとく首を取れ。」（30名）
- 「泣く泣く首をぞかいてんげる。」（19人）
- 「名のらずとも首を取って人に問へ。」（９名）

以上のことから，単元に入る前から教員が考えていた課題「自分なら敦盛の首を取るか」につなげることができた。

本時ではまず，課題に対して自分の考えを書く時間を６分確保した。時間内に本文を根拠に主張を書いたのは約９割の生徒であった。その中の多くの生徒が敦盛と直実両側を合わせて３～４の根拠を挙げていた。問答ゲームを行った後，ほとんどの生徒が加筆し，全体での話合いとなった。

生徒75名のうち「敦盛の首を取る」が55名「首を取らない」が20名であった。

「首を取る」と主張した生徒の意見の特徴（ワークシートの記述より）

○直実と敦盛の両人の言動や思いから「仕方なく首を取る」という判断をしている。また，武士として戦乱の世を生きているということを踏まえている。（以下生徒の意見を抜粋）

- どうせ殺されるなら，敦盛を思っている自分（直実）の手で殺してあげたい。
- 敦盛は幼い頃から武士としての教育を受けており，大将としての覚悟もできているから，それを尊重するのが武士だと思う。逃がす方が敦盛のプライドを傷つけてしまうことになる。
- 直実は，人の死を嫌うのであれば，敦盛を逃がして自分が満足するよりも，早く大将を殺して，少しでも早く相手を降伏させ，戦を終わらせたいと考えたと思う。

「首を取らない」と主張した生徒の意見の特徴（ワークシートの記述より）

○直実側の言動，思いを中心に捉えており，敦盛側の捉えが薄い。場面の状況に関する根拠を挙げている生徒が少ない。（以下生徒の意見を抜粋）

- 人を殺すのはつらい。
- 出家をしたいという思いを以前から抱いていた＝殺生を嫌っていたはずだ。
- 自分の子どもと重なってしまい，殺すなんてできない。
- 殺すのをつらく思っているので，自分ではなく他の源氏の手で切らせた方がよい。

「敦盛自身も自分を思ってくれている直実に殺されたいと思っているから首を取る。」と言った生徒に対して「敦盛にとって殺されるという事実は変わらないから，『首を取られるなら直実に。』という思いはないのではないか。」という反論が出てきた。そこで，「敦盛は首を取られるなら直実に，と思っていたか。」という問いをすると「敦盛は海側から引き戻したのだから，陸側を向いている。それならば五十騎の源氏軍は見えていたはず。そこで直実が自分を思って逃がせばそれを味方が見てしまい直実が罪に問われてしまう。敦盛は自分を気遣ってくれた直実にならば，という思いがあるのではないか。」「直実が『直実が手にかけまゐらせて，後の御孝養をこそつかまつり候はめ。』と言った後のタイミングで敦盛が『とくとく首を取れ。』と言っている。直実の気持ちが分かったから，この人にならと思ったのではないか。」などと，様々な視点で「殺されるなら直実の手で。」という主張の根拠を挙げていった。授業の振り返りでは，自分とは違った角度から根拠を述べていた生徒の発言に対する賞賛の言葉が出されていた。

ウ　考　察

前時までを含め，「敦盛の最期」の内容を確認する時間は設けていなかったが，短時間で根拠を元に主張をしている様子を見ると，各自が現代語訳を確認しながら視写を行ったこと，本時を含め，音読を３度行っていることが内容理解に役立っているのではないかと考えられる。個人で課題について考える段階では読みが十分でなかった生徒も，話合いによって徐々に自分の意見が変化したり，主張を支える根拠が確かなものになったりと個人内の考えを深めることができた。話合いの場面では，仲間の発言を踏まえて自分の主張や反論を述べる生徒が多く，課題解決に向けて話し合い，聴き合い，共有し合いながら，多様な視点で読み深めることができ始めていると感じた。相互評価の場面では，仲間の意見により新たな発見があったり，読みが深まったりしたことが生徒の発言から分かった。

４　成果と課題（○成果につながること　●課題につながること）

○　文学作品の授業の中で，生徒が挙げたポイントとなる言葉を基に学習課題を設定することで，生徒の主体性を引き出すことができた。

○　根拠を明確にして話し合うことで，より深い読みにつなげることができた。また，他者の意見を聞き，その意見が確かかどうか自分で確認するために反論することで，自分の考えに広がりを持たせることができた。学力低位の生徒も積極的に発言する場面が多かった。

○　相互評価で他の意見を賞賛することで，協同の喜びを知ることができた。また，賞賛された生徒の自己肯定感を高める一助となったのではないかと思う。

○　ワークシートを事実（本文）・理由づけ・主張の欄や登場人物別の欄を設けるなど，思考の整理を目に見える形にしたことで，発言する内容も他に分かりやすいものになってきた。

○　音読と視写によって言葉に触れることで，見過ごしていた言葉を見つめたり，言葉の意味を考えたりするきっかけとなり，論理的に読み深める手立ての一つとなったと考えられる。

●　古典を扱う場合，時代背景や状況についての知識の量の差によって，主張や根拠にも差が出る可能性がある。社会科とのカリキュラム・マネジメントの必要性を感じた。

●　話合いの中で，個人で根拠を見つめ直す時間が十分に設けられない場面があった。個人で考えを吟味する時間を適切に設けることで，読みがさらに深まるのではないかと思う。

研究（その２）

仲間との関わり合いの中で考えを深め，古典に親しむ学習指導の工夫

（実践者）大上　航太

１　研究テーマ設定の理由

昨年度の取組では，古典作品を扱った学習におけるパフォーマンス課題や，小集団で力を合わせ，お互いの良さを認め合いながら課題を協同的に解決する場を効果的に設定するとともに，主張と事実，理由づけ（説明）を明確にしながら筋道を立てて考えたり表現したりする意識を持たせることで，一人一人の考えを深めることができた。そして，そのことが古典の魅力を味わわせ，親しませることにつながった。

今年度は，昨年度の成果を継承し，小集団で力を合わせ，お互いの良さを認め合いながら課題を解決する協同の場の効果的な設定と，筋道を立てて考えたり表現したりする論理的思考を課題の解決のために生徒に発揮させることを特に意識して授業実践を行っていくことを目指し，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

(1)　生徒の実態把握

(2)　協同の学び合いの中で考えを深める学習指導の工夫

目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を生かすことができるように，単元を通して持続できる課題意識を持たせる（パフォーマンス課題の設定）とともに，言語活動を単元の中で効果的に位置付ける。また，主張・事実・理由づけ（説明）を意識して考えたり記述できたりするとともに，自分の考えの変化や他者との関わりについて振り返ることができるワークシートなどの作成を行う。そのことで，一人一人の考えを論理的かつ着実に深め，自分が成長できたという実感を持たせる。

(3)　生徒の活動の様子やワークシート等の分析

以上のことを通して，指導の工夫を行い，その有効性を考察するとともに，そこで得た成果や課題を以後の授業実践に生かしていくこととする。

３　研究の実際

(1)　生徒の実態

本学級の生徒（40名）は，昨年度「『平家物語』の魅力を解説する文章を書こう」という単元において「扇の的」の魅力を解説する文章（800字程度）を書く活動を行った。その文章について約８割の生徒が，「主張が文章中の表現を基に説明されたものだと言える」かつ「魅力がとても伝わってくる」と答えている（相互評価）。多くの生徒が，主張・事実・理由づけ（説明）を筋道立てて記述することができており，そのことが平家物語を深く読み取り，その魅力を味わうことにつながった。「有名な古典研究者が中学生雑誌に載せる仕事」というパフォーマンス課題の設定により，単元を通して意欲を持って課題を解決しようとする姿や，お互いの解説文をよりよいものにするために積極的に小集団で協力する姿勢につながった反面，客観的に魅力を捉えようとしすぎた傾向がある。自分なりの解釈や判断（理由づけ）をより大事にしながら古典の魅力に迫れるような教師の働きかけや，パフォーマンス課題設定の工夫が必要である。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

論理的に思考し表現する力を高めるためには，主張，事実，理由づけを意識し，筋道を立てて考えることが必要だと考えた。そこで，文章を読み取り自分の考えを表現する際には，事実となる本文中の表現を捉えさせ，そこから自分の考えにつなぐ説明を教師側が意識して求めることにした。また，ワークシートを作成する際も，本文中の表現を基に説明を加えながら自分の考えを記述することができるように工夫することとした。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ア) 単 元 名

「百人一首」の魅力を附小の６年生に解説しよう

(イ) 単元目標

「百人一首」の魅力を小学６年生に解説する文章を和歌の表現を引用しながら書くことで，和歌の世界に親しむ。

〔本質的な問い〕

古典作品（和歌）の魅力を味わうにはどうすれば良いか。

〔永続的な理解〕

古典作品（和歌）に表れている作者の心情などを和歌の中の言葉を基に想像し，古典作品に表れているものの見方や考え方に触れ，その価値に気付くことが大切である。

(ウ) 評価目標と評価方法

評 価 目 標	評 価 方 法
①和歌の魅力を解説する文章を書くことで，古典の世界に親しむとともに，交流活動を進んで行い，自分の考えを広げたり深めたりしようとする。 （関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 「附属小学校では百人一首の暗唱やかるた取りを行っているそうですが，歌そのものの内容や魅力についてはあまり詳しく知らないそうです。先輩として和歌の魅力を解説する文章を書き，附小の６年生に読んでもらい，和歌の魅力を伝えましょう。」（評価目標の①②③） ○小集団活動の観察（評価目標の①） ○ワークシートの記述分析（評価目標の①②③）
②和歌を読むことを通して，作者の心情や情景などについて考え，自分の考えを持っている。 （読むこと）	
③和歌の表現を引用しながらその魅力を解説する文章を書き，古典の世界に親しんでいる。 （伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）	

(エ) ルーブリック

	「百人一首」の魅力の説明は筋道が通っているか。	「百人一首」の魅力が伝わるものか。
A	○魅力が歌の表現を基に説明されたものだと言える。 ○説明が分かりやすく納得させられるものである。	○取り上げている魅力の内容や例，たとえが小学６年生の興味を引くものである。 ○表現の仕方に工夫が見られる。
B	○魅力が歌の表現を基に説明されたものだと言える。	○取り上げている魅力の内容や例，たとえが小学６年生の興味を引くものである。
C	○魅力が歌の表現を基に説明されたものだと言えない。または，勝手な解釈に思える。	○取り上げている魅力の内容や例，たとえが小学６年生の興味を引くものではない。または，内容が難しすぎて分かりにくい。

(オ) 指導計画（全６時間）

学習内容	◇評価規準（観点）	時間
学習の見通しを持とう。 ○学習内容と単元を通しての目標を確認する。 ○「百人一首」について知る。	◇「百人一首」の中のいくつかの歌を音読することで，古典の世界に興味を持つ。（関心・意欲・態度）	1
「百人一首」の魅力を解説する文章を書こう。 ○和歌を選び，今後の活動の見通しを立てる。 ○和歌を読み，作者の心情や情景などについて考える。 ○解説文の下書きを書く。 ○仲間同士で文章の下書きについてアドバイスをし合う。 ○話し合ったことを基に課題の文章を書く。	◇和歌に詠まれた作者の心情や情景などについて考え，和歌の魅力について自分の意見を持っている。（読むこと） ◇書いた文章をお互いに読み合い，進んで意見を述べたり助言をしたりして，自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。（関心・意欲・態度） ◇和歌に詠まれた作者の心情や情景,和歌の魅力などについて自分の考えを広げたり深めたりしている。（読むこと） ◇和歌の表現を引用しながら作者の心情や情景などを想像し，和歌の魅力についての解説文を書いている。（伝統的な言語文化）	4
お互いの解説文を読み合おう。 ○お互いが書いた文章を相互評価する。	◇自分たちが書いた解説文について小学生が書いた感想やコメント，他の生徒の書いた解説文を読んで，和歌の世界に親しんでいる。（伝統的な言語文化）	1

今回扱った和歌は「百人一首」である。鎌倉時代に藤原定家が小倉山の山荘で選んだとされる「小倉百人一首」は，日本人に最も親しまれている和歌集と言っても良く，歌に表された作者の心情は，時代を超えて現代の私たちの心を打つものである。

本単元では，「『百人一首』の魅力を小学６年生に解説しよう」という目標を設定することで，主体的に和歌の世界に触れさせ，和歌の表現を引用しながらその魅力を小学生に解説する文章を書かせた。また，文章について，小集団で話し合ったりアドバイスしたりする活動を取り入れることで，筋道を立てて考えたり表現したりする力を発揮させながら，仲間と協力して課題を解決する力を育てるとともに，多様な価値観や考え方を認め，生徒自身の考えを深めさせた。

本単元の目標（「百人一首」の魅力を小学６年生に解説する文章を，和歌の表現を引用しながら書くことで，和歌の世界に親しむ）を達成するために，次のことに留意して指導した。

一つ目は，パフォーマンス課題の工夫である。生徒に単元を通して持続する現実的な課題意識を持たせることで，進んで和歌に親しむことができるようにした。

二つ目は，課題解決のために協力して意見を出し合う「きょうどう」の学びを発揮させる場を設定することである。今回は選んだ和歌の魅力を確かめ合ったり，和歌の魅力を伝える文章がよく分かるものであるか仲間同士で話し合ったり，主張と事実，理由づけ（説明）のつじつまが合っているか指摘し合ったりする活動を取り入れた。

三つ目はワークシートの工夫や付箋紙の活用である。和歌から読み取れることなどについて自分が考えたこと（主張），和歌の表現（事実），和歌の解釈や，和歌の表現を魅力につなげるため

の説明（理由づけ）を，整理して筋道立てて文章に表すことができるようにするとともに，話合いの際，付箋紙を利用しながら良いところやアドバイスを指摘させ合うことで，課題を解決し考えを深めさせることに役立てた。

(カ) 第４時の指導（４／６時間）

○主　題　「百人一首」の魅力を解説する文章の下書きについてお互いにアドバイスをしよう

○ねらい

- 書いた文章をお互いに読み合い，進んで意見を述べたり助言をしたりすることができる。
- 相手の助言などを通して，和歌に表れている作者の心情や情景，魅力について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

○展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　本時の学習課題を確認する。 （一斉）	5	○班で協力しながらお互いの文章を見直すことで，「百人一首」の魅力がよく分かる文章にしよう。	○小集団で積極的に話合いが行えるように学習課題を明示した。
2　書いた文章について交流する。 （小集団） ↓ （全体）	25	書いた内容についてみんなで交流しよう。 ・和歌の意味をきちんと理解して書けているので良い。 ・当時の時代背景を示しながら示すことで魅力がよく伝わってくる。 ・小学生が身近に感じやすい具体例を挙げればより伝わりやすくなると思う。 ・話の流れが分かりづらい部分があったので説明を加えると良い。	○自分の考えをよりよいものにするために小集団で交流させた。その際，付箋紙を活用させた。 **○論理的に思考し表現する力が発揮されるよう，自分の意見を述べる際には具体的な表現を挙げながら発言するよう促した。** ◇付箋紙を使いながら相手への助言などを積極的に行っている。 （観察・ワークシートの記述分析）
3　交流したことを基に自分の表現を見直す。　（個人）	10	○自分の表現を見直そう。 ・まずは相手の興味を引くことが大事だな。 ・身近に感じられる具体例を入れよう。	◇相手の助言を基に自分の表現を見直し，和歌から読み取れる心情や情景，和歌の魅力などについて考えを広げている。 （観察・ワークシートの記述分析）
4　本時のまとめと次時の活動内容の確認を行う。 （個人） ↓ （一斉）	10	○交流した成果を振り返ろう。 ・魅力を説明するといっても様々な表現の仕方があるのだな。 ・自分では考えてもなかったことを話合いで知ることができた。 ○今日の活動を基に次の時間に清書を書こう。 ・良かった点と課題を挙げてもらったので，清書をどう書けば良いかはっきりしたな。	○本時の振り返りをワークシートに記述させることで，交流を行ったことによる成果を確認させた。
授業研究の視点	○付箋紙を使いながら話合いを行わせたことは，自分の考えを広げたり深めたりすることや，お互いの良さを発見させ自己の肯定感を高めることにつながったか。 ○百人一首の魅力を，事実（和歌の表現）・理由づけ（解釈，説明）を意識しながら表現させたことは，作者の心情や情景，和歌の魅力について自分の考えを持たせるのに効果的だったか。		

イ　生徒の学びの実際

パフォーマンス課題に対する生徒の解説文をルーブリックと照らし合わせた結果,「『百人一首』の魅力の説明は筋道が通っているか。」については，Aが36人（92%），Bが３人（８%），Cが０人（０%）であった。また「『百人一首』の魅力が伝わるものか。」については，Aが36人（92%），Bが２人（５%），Cが１人（３%）であった。

次に，第４時の振り返りで生徒が答えた（記述した）内容の主なものを次に挙げる。

【主張（魅力），事実（文章中の表現），理由づけ（説明）を意識して文章を読んだり書いたりできたか。】
よくできた　18人　　できた　13人　　あまりできなかった　１人　　全くできなかった　０人

【主張・事実・説明を意識して話し合うことができた。】
よくできた　25人　　できた　7人　　あまりできなかった　０人　　全くできなかった　０人

【友達と交流してよかったことや学んだこと。（自由記述）】
○自分の文章を相手に伝えるためには相手の興味を引くことが大事である。
○友達の文章を読んで身近な具体例を使っている方が想像しやすく魅力が生き生きと伝わってくることが分かった。
○友達の文章を読んで自分も知らなかった歌の魅力や意味を知ることができた。新たな発見があったので良かった。
○客観的なアドバイスをもらえたので良かった。
○自分が選んでいなかった歌の解説にも自分の歌に取り入れられる部分があったのでとても参考になった。
○少し分かりづらい部分を指摘してくれて，どのように改善したら良いのかがよく分かった。また，発表で出た良いところの共通点として身近な具体例を挙げる点も取り入れようと思った。
○私は風景に関する歌を選んでいたので具体例を挙げるのは難しいが，相手にイメージしてもらう手段があることに気付けた。文章に関しては「構成は良い」と言われたので次回調整して臨みたい。
○友達の歌の説明を聞いて，自分が考えていたこととは違う考えがたくさんあって参考になった。みんなのアドバイスを生かしてより魅力的な文章にしたい。
○私は歌の意味について調べたことをそのまま書いていたが，友達の文章を見ると自分の意見がより伝わるように，自分で意味をひもといてからくだいた言い方で書いていた。参考にして自分の文章を直したい。
○全体で友達の発表でもあったように，相手に想像させることが大切だと思った。
○この文章で大事なのは対象が小学生であるということだ。そのために和歌という遠いものを身近なたとえを用いることで小学生に近づけることが大切であることが分かった。
○今日の授業で学んだ大事なことの一つ目は作者の思いや考えをどれだけ細かく読み取れるかということ，もう一つは読み手に親近感を与える文章づくりだ。どちらも自分の考えを理解してもらうために必要である。
○お互い違う百人一首をえらんでいたが共通する部分もあった。また，自分の良かった点と課題を挙げてもらったので清書をどのように書けば良いかはっきりした。
○自分が魅力だと思っていたことが友達と違っていて本当の魅力は何かと考えさせられた。文章に自信が持ててなかったが付箋に良いところが書かれてあって嬉しかった。
○もっとこうすれば良かったということがたくさん出てきた。友達のアドバイスで自分が不安に思っていたことの改善点が見つけられたし，友達にアドバイスすることによって自分のこんな表現いいな，とか，こうしたいと思うことができた。
○友達に読んでもらい改善点を理由づけて言ってくれたので納得することができた。次はよりよい文章が書けると思う。自分の表現の良いところもさらに良くしていきたい。
○読んでいてオーッとなる文章にはどれも共通点があった。自分の文章に足りないものをしっかり付け足して本番の文章ではみんなが納得できるような文章を書きたい。特に具体例を出して親近感を出すことを意識したい。

ウ　考　察

パフォーマンス課題の設定により，単元を通して意欲を持って課題を解決しようとする生徒の姿につながった。また，お互いの解説文をよりよいものにするために積極的に小集団で協力する姿勢も伺えた。特に小学生に自分たちの解説文を読んでもらうという設定は生徒に相手意識を持たせる上で大変効果的であった。

お互いが考えた和歌の魅力を確かめ合ったり，和歌の魅力を伝える文章が小学生によく分かるものであるか話し合ったり，主張と事実，理由づけ（説明）のつじつまが合っているか指摘し合ったりする活動を取り入れることが，多様な考えに触れ自分の考えを広げさせることにつながった。また，相手を認める意識を持たせたり，あるいは相手に認めてもらうことで自己肯定感を持たせたりしながら読みを深めさせることができた。

解説文を書くためのワークシートの作成を行った際，百人一首の魅力，事実（歌の表現や背景など），理由づけ（事実から百人一首の魅力につなげる説明）を踏まえて書かせるようにした。それにより，主張，事実，理由づけを意識して使い，筋道立てて自分の考えを表現することにつながった。特に小学６年生に伝えるという相手意識を持たせることにより，理由づけ（説明）をより分かりやすく丁寧に考えようとする姿勢につながった。また，「良いところ（緑）」「アドバイス（黄）」２色の付箋を交流する際に活用したが，付箋に記述する内容を具体的な点を挙げて書くことができていた。そのことが交流活動を充実させることにつながった。さらに，新たな発見を通して相手を認める意識を持たせたり，あるいは相手に認めてもらうことで自己肯定感を持たせたりすることができた。

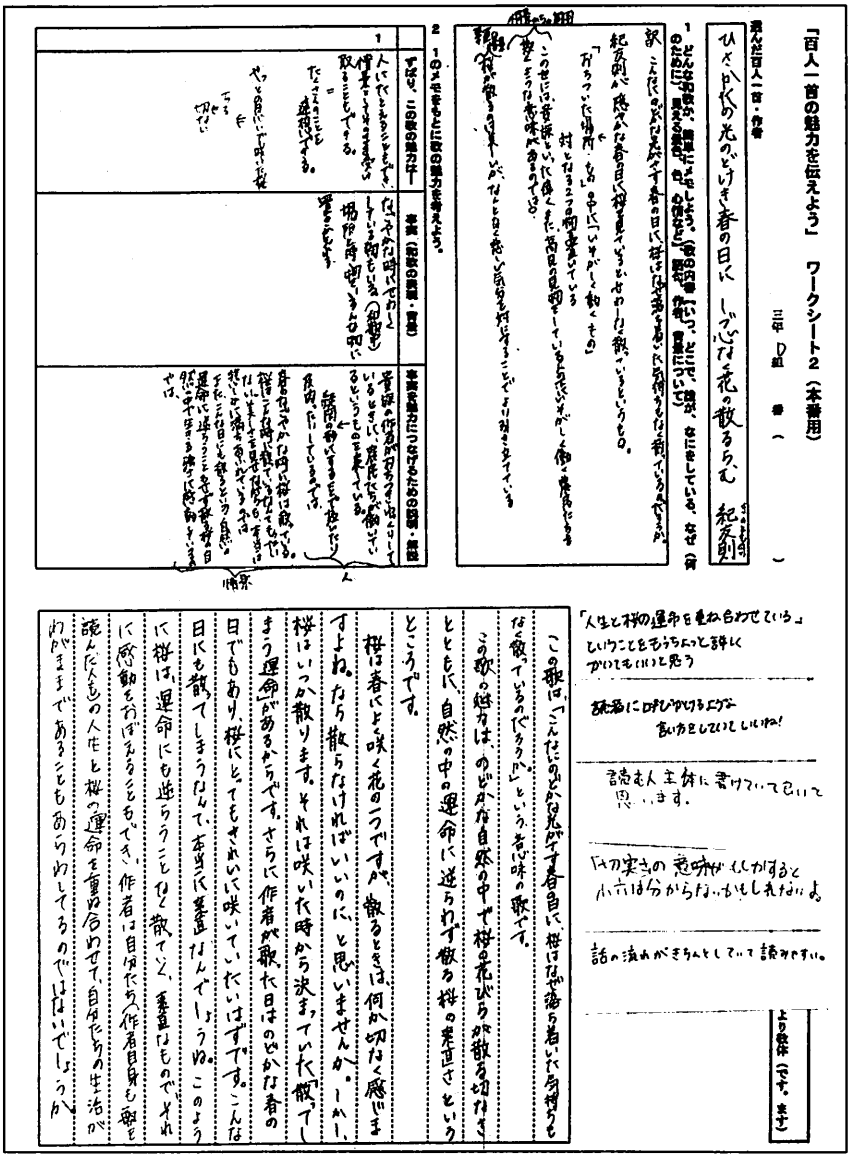


図1　第３時に書いた解説文を第４時で交流したもの
付箋に良いところやアドバイスを書き，それを基に小集団で交流した。

４　成果と課題（○成果につながること　●課題につながること）

○　パフォーマンス課題を，教材や生徒の実生活に合ったものにすることで生徒の課題意識を継続して持たせるとともに，相手意識を持って文章を考える態度につながった。

○　主張，事実，理由づけを意識し，筋道を立てて考えさせる機会を意識して設けてきたことで，論理的に思考し表現する力を高めるとともに，その力を発揮させて一人一人の考えを論理的かつ着実に深めることができた。それが古典に親しむことにつながった。

○　小集団で力を合わせお互いの良さを認め合いながら課題を協同的に解決する場を設定したことで，相手を認める意識を持ったり，あるいは相手に認めてもらい自己肯定感を持ったりしながら課題解決に取り組ませることができた。

●　ワークシートや付箋を活用したことは協同の学びの手助けになったが，一人一人が書く時間や内容の差についても考慮し，特に，考えを表現するのに時間を要する生徒に対する支援について考える必要がある。

研究（その3）

他者との対話的な学びを通して
文学作品を読み深める学習活動の工夫

（実践者）丸山　佑樹

1　研究テーマ設定の理由

文学作品の読みは本来読者個々の活動であるため，多様な文章の読取が認められるものである。しかし，教室における文学作品の読みの授業では，個々の読取を他者との対話によってさらに深め，自分のものの見方や考え方をより豊かなものにしていく。本研究では，他者と考えを練り合う対話的な学びを通して，文学作品を読み深めるための読みの課題を解決していく授業を構成することで，興味を持って学習に臨み，またより深く文学作品を読む力を伸長させることができると考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

(1)　生徒の読みから生じた疑問を読みの課題とする授業展開の工夫

生徒個々の読取の中で生じた疑問を基に，文学作品をさらに読み深めるための課題を設定する。

(2)　対話的な学習活動による学び合いの充実

ペアや小集団，全体などの学習形態を工夫したり，問答ゲームやジグソー法を用いたりして，個々の読みをさらに深めるための対話的な学びの場を充実させる。

(3)　生徒の活動の様子やワークシート，授業アンケート等の分析

授業における生徒の様子を観察したり，授業で使用したワークシートや授業アンケートを分析したりして，今後の指導・研究に役立てる。

3　研究の実際

(1)　生徒の実態

本学級の生徒（39名）は，「字のない葉書」を扱った単元で，「『最もつらかったのは誰か』というテーマで自分の考えを論じる」というパフォーマンス課題に取り組んだ。多くの生徒が本文の記述を自分なりに解釈し，それを根拠に自分の考えを述べることができていた。対話的な学びを通して他者の考えを知ることで，新たな発見があったり，他者の考えと自分の考えを比較したりすることで，読みが広がったり深まったりした。しかし，話合いの中で，「母は家族思いだから」といった自己の経験から考えられることのみを根拠に主張を述べる生徒もいた。そこで，文学作品の読みを深めるための話合い活動では，本文の記述を基に自分なりの解釈を述べる，主張－事実－理由づけを明確にした筋道立った説明を大切にさせていきたい。

(2)　論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

文学作品の読みを他者との対話によってさらに深め，自分のものの見方や考え方をより豊かなものにするための学習活動を通して，論理的に思考し表現する力が高まると考える。対話的な学びでは，自分の考えをわかりやすく他者に伝えなければならない。わかりやすく伝えるために，読みの課題に対する自分の考え（主張）を，本文の記述（事実）をどのように解釈したか（理由づけ）を根拠として説明することで，論理的思考力・表現力が高まっていくだろう。

また，読取を深めるための対話的な学びには明確な解のない発問を用いる。「メロスにとってもっと恐ろしく大きいものとは何か」といった問いである。問いについて自分の考えを持つために，言葉の一つ一つを吟味しながら精読し，文章の記述から読み取ったことを根拠として自分の考えをまとめる。そして，問答ゲームや話合い活動などの対話的な学びの活動を通して他者と考えを交流することで，自分の考えが広がったり深まったりして，文章に立ち現れる人間のものの見方や考え方に迫っていくことができる。単元のまとめの学習活動では「メロスは何のために走ったのか」という読みの課題について，自分の考えを文章にまとめるパフォーマンス課題を設定した。この学習活動によって，これまでの活動を通して読み取ったことを再度思考・整理して，さらに読みを深めることができる。

以上のような指導の工夫をすることで，論理的に物事を捉えたり，自分の考えを根拠を用いて表現したりする力を伸長させることができると考える。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ア) 単 元 名

読みを深め合おう —「走れメロス」（太宰治）—

(イ) 単元目標

文学作品の読みを他者との対話によってさらに深め，自分のものの見方や考え方をより豊かなものにすることができる。

〔本質的な問い〕

文学作品の読解を通して，自分のものの見方や考え方を豊かにするにはどうすればよいのだろうか。

〔永続的な理解〕

登場人物の評価，出来事の解釈，作品の鑑賞・評価などの「内容」や人物の言動，人物関係，場面構成などの「表現」を，本文の記述を根拠に論理的に読み取り，他者との対話の中で意見交流することが有効である。

(ウ) 評価目標と評価方法

評 価 目 標	評 価 方 法
①文学作品に表れる人間についてのものの見方や考え方を読み取り，他者との対話的な学びによって，自分の考えをさらに深めようとする。（関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 あなたは文学作品評論家です。「走れメロス」を題材に，読み取ったことを執筆することになりました。テーマは，「メロスは何のために走ったのか」です。文章から読み取った自分の解釈を論じなさい。 （評価目標の①②③）
②人物の言動や様子，情景描写から，文章に表れている人間についてのものの見方や考え方を読み取り，それに対する自分の考えを持っている。（読むこと）	
③人物の心情や考えを表す語句や表現の効果的な用い方について理解を深め，自分の表現に役立てる。（伝統的な言語文化と国語に関する事項）	○授業中の活動観察 （評価目標の①） ○ワークシートの記述分析 （評価目標の②③）

(エ) ルーブリック

自分の考えを論じることができているか。
A　自分の考えと本文の記述を基にした根拠につながりがあり，納得いくものである。
B　自分の考えと本文の記述を基にした根拠が書かれてある。
C　自分の考えに対する根拠の内容が不十分や不明確でわかりにくい。

(オ) 指導計画（全９時間）

次	学習内容	◇評価規準（観点）	時間
1	文学作品を読み取ろう。 ○導入部から，物語の場面設定を読み取る。 ○展開部から，人物の言動を中心に場面ごとの事件の展開を読み取る。 ○悪い夢の場面から，人物の心情の変化を読み取る。 ○山場の部から，クライマックスを読み取る。 ○山場・終結部を中心に作品の鑑賞・評価をする。	◇文学作品に表れる，人間についてのものの見方や考え方を読み取ろうとしている。（関心・意欲・態度） ◇文章の構造を捉え，各まとまりごとに本文の内容を読み取っている。（読むこと） ◇人物の心情や考えを表している描写を本文から見付け，読み取っている。（読むこと） ◇文中の人物の心情や考えを表す描写を，自分の表現に役立てて書き換えている。（伝統的な言語文化と国語に関する事項）	6
2	さらに読み深めよう。 ○対話的な学びで多様な考えを知り，理解を深める。 ○パフォーマンス課題に取り組み，自分の考えをまとめる。	◇これまでの学習で文章中から読み取ったことや，対話的な学びで得たことを踏まえ，文章を読み深めて自分の解釈をまとめている。（読むこと）	2本時(その1)
3	作文を読み合おう。 ○自分の考えと他者の考えを比べながら互いの作文と読み合わせる。	◇他者の作文に表れている解釈を読み取り，自分の考えと対照しようとしている。（関心・意欲・態度）	1

(カ) 第７時の授業（７／９）

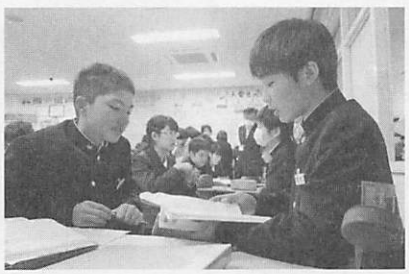
○主　題　話合いを通して読みを深めよう

○ねらい

対話的な学びの中で，根拠を明らかにして自分の主張を表現することができる。

○展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　前時の学習を振り返る。（一斉）	3	○文章の読取について，学習してきたことを振り返ろう。	○これまでの学びを本時に生かすよう見通しを持たせた。

2　課題を明確にする。（一斉）	2	学習課題	メロスは何のために走ったのだろう？
		○物語をさらに深く読み，パフォーマンス課題に取り組むために話し合おう。	○パフォーマンス課題とルーブリックを示し，達成目標を意識させることで，意欲的に学習課題に取り組ませた。
3　本文から読み取ったことを整理する。 （ペア） ↓ （全体）	12	○メロスは何のために走ったのだろうか。 • 友との約束を守るため。 • もっと恐ろしく大きいもののため。 ○「もっと恐ろしく大きいもの」とはどのようなものか整理しよう。 • わけのわからない大きな力。 • 自分を無理矢理走らせるような強い力。	○本文の記述やこれまでの学習で学んだことを振り返ることで，自分の考えに根拠を持たせた。 **○自分の考えを整理するために問答ゲームを行った。その際，必ず根拠を述べるよう指示した。**
4　対話的な学びを通して，自分の考えを深める。（全体） 	25	○自分の考えを，本文の記述を基にした根拠を明らかにして述べよう。 • 友人セリヌンティウスとの約束を守り切るため。 • しかし，愛や名誉や信実のために走ったのではないと本文には書かれてある。 • メロスがこれまでの人生においては感じたことのないものなのではないか。 • メロスも言葉では表せないことだったのではないか。	**○生徒から出た意見から発問をし，多様な考えを引き出し，各自の考えが深まったり，他者の考えを聞いて広がったりする対話的な学びを充実させた。** ◇文中の記述（事実）から読み取ったこと（理由づけ）を根拠に自分の主張が述べられている。（観察・ワークシート）
5　自分の考えを文章にまとめるための構成メモを作る。 （個人） ↓ （ペア）	5	○最終的な自分の考えをまとめる文章を書くための，構成メモを作ろう。 ○完成した構成メモを基にペアで話合い，論理的に表現することができる構成・内容になっているか検討しよう。	○本時の話合い活動やこれまでの文学作品の読取を振り返らせて，課題に対する最終的な自分の主張を論じるための構成を考えさせた。 
6　学習を振り返り，次時への見通しを持つ。（個人）	3	○本時の学習内容を振り返り，学んだことやわかったことを授業の記録カードに記入しよう。	

イ　生徒の学びの実際

本授業では，「メロスは何のために走ったのか」というテーマで話合いを進めている中から生じた「もっと恐ろしく大きなものとは何か」という疑問を読みの課題に設定した。授業における対話的な学びでは，発表した生徒の考えに対して賛成・付足，反対・反論，質問・提案をしながら，話合いを進めていった。教師はファシリテーターの役割を担い，他者の意見に対する自分の立場を明確にしたカード（**図１**）を持って挙手している生徒を指名し発言させることで話合いを進行した。

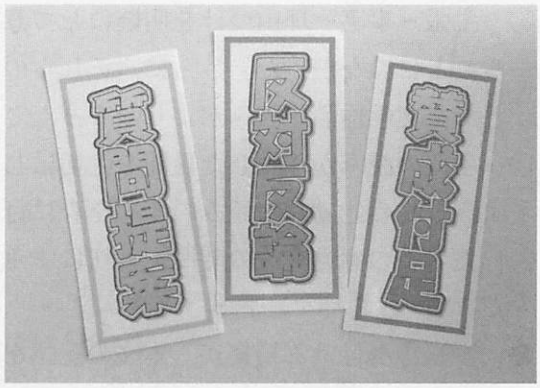


図１　発言者の立場を明らかにするためのカード

「もっと恐ろしく大きなものとは何か」についての生徒の意見では，「愛や正義や信実」「セリヌンティウスがメロスを信じている気持ち」「王様を変えてほしいという民の気持ち」といった本文の記述にあることが中心であった。しかし，それでは「間に合う間に合わないは問題ではないのだ」というメロスの発言と矛盾することに気づき，「ゼウス（神）」「深紅の心臓」「夕日」といった抽象的なものを解とする発言へとつながった。それはメロスも言葉ではっきりとは表現できない何かであるという理由からであった。さらに話合いを進めると，「友や民を救う」「自分の誇りを守る」といった前向きな気持ちが，さまざまな経験を通してメロスの中で大きく変化したことによって，走る目的も変わっていったという発言もあった。

「メロスは何のために走ったのか」について自分の考えを論じるパフォーマンス課題に対する生徒の作文をルーブリックと照らし合わせると，Ａが31人，Ｂが８人，Ｃが０人であった。

ウ　考　察

授業での話合いの内容やパフォーマンス課題の作文内容などから，文学作品の読みの深まりを考察する。話合い活動では，本文にある記述を自分なりに読み取ったことを根拠として説明することができている生徒が多くいた。そのため，学習課題に対して自分の考えを持つことができていなかった生徒も，単元末に行ったパフォーマンス課題では他者の意見を参考にしながら自分の考えをまとめることができた。また，他者の発言に対して，賛成や反対意見を述べることで自分の考えがさらに深まっていたと考えられる。論理的思考力・表現力を生かした他者との対話的な学びを通して，文学作品を読み深めることができたと考えられる。

次に，論理的思考力・表現力を高めるための工夫について考察する。授業についての生徒アンケートでは，「筋道立てて物事を考えたり，話したり書いたりする力が伸びた」という質問で「あてはまる」「どちからというとあてはまる」と答えた生徒がほとんどで，「どちらかというとあてはまらない」「あてはまらない」と答えた生徒が39名中２名であった。「どのような学習活動がこれらの力を伸ばしたのか」という質問については「学習課題に対する話合い活動」「問答ゲーム」「学習課題作り」「単元末の作文を書く活動」などが主なものとして挙げられていた。研究内容でもある，「生徒の読みから生じた疑問を学習課題とする授業展開の工夫」や「対話的な学習活動による学び合いの充実」が論理的思考力・表現力の高まりを生徒自身が実感することにつながっていると考えられる。

以上のことから，本単元の対話的な学びを用いた授業は，論理的に思考し表現する力を高め，また文学作品を読み深める手立てとして，有効であったと考えられる。

4　成果と課題（○成果につながること　●課題につながること）

○　主張－事実－理由づけを明確にして意見を述べさせることで，論理的思考力・表現力を高めることにつながった。さらに，それらの力を生かした他者との対話的な学びの場を設定することで，文学作品の読みがより深まった。

○　生徒の読みから生じた疑問を大切にした学習課題を設定することで，自力で文章を読み深めようとする能動的な読みの姿勢を身に付けさせることができ，学習意欲が高まった。

○　他者との意見交流の時間を大切にすることで，協働的な学びに喜びを感じさせることができた。

●　主張を裏付ける根拠が，本文の記述をもとにした読み手の解釈なのか，読み手の経験から導き出された根拠なのかを，判断させるために，批判的に聴く力を身に付けさせる必要がある。

第3章　おわりに

文学作品における読みの課題を協同的に追究し読み深める学習活動を展開することにより，自立と共生の力を育てることにつながると考え，実践を行ってきた。

協同の学び合いを充実させるために，単元を通して持続できる課題意識を持たせるパフォーマンス課題の設定や，主張・事実・理由づけを意識して考えたり記述できたりするとともに，自分の考えの変化や他者との関わりについて振り返ることができるワークシート等の工夫，ホワイトボード，付箋紙等の活用を行った。

その結果，課題に主体的に取り組み，主張・事実・理由づけを明確にしながら考え，表現するとともに，生徒同士の多様な意見を積極的に交わし合い，お互いの良さを認め合いながら課題を解決する生徒の姿につながった。また，昨年度から取り組んでいる論理的思考力・表現力を育て発揮させる日常の授業の取組が，交流活動や全体で意見を練り合う活動を支えていると実感した。持続可能な社会を支える資質・能力を一層育てるために，今年度の成果を次年度に生かしたい。

参考文献

三浦和尚（1993）「中学校国語科学習指導の展開―表現活動を中心として―」三省堂

奈須正裕・江間史明（2015）「教科の本質から迫るコンピテンシー・ベイスの授業づくり」図書文化社

三浦和尚（2006）「国語教育の実践知―確かな学びを支える25のキーワード」三省堂

三浦和尚（2002）「『読む』ことの再構築」三省堂